



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2007.4

No. 276

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



知ってるような知らないような 野鳥の用語

海老原美夫(さいたま市)

●発端は

この冬多数飛来したウソについて、昨年12月21日付け読売新聞埼玉県版に小文を掲載したところ、「ウソという亜種」という言葉は間違いではないですか? という問い合わせがありました。「ウソという種」と「アカウソという亜種」はいいけれども、「ウソという亜種」という言葉はおかしい、と言うのです。「種」と「亜種」の関係が理解されていないようです。

ほかにも、最近気になる表現をいくつか見かけました。そこで今回は、『グリーンブックス110 野鳥用語小辞典』(唐沢孝一著、ニューサイエンス社、昭和59年)と、『鳥類学辞典』(山岸哲ほか監修、(株)昭和堂、2004年)などを頼りに、いくつかの用語について考えてみることにしました。

●そもそも「種」とか「種名」って?

そんなこと知ってるよ! って、まあまあ。「種 species」とは、厳密に言うところ「生物種」あるいは「生物学的種」という生物分類の基本単位です。この言葉だけでもいろいろあるのですが、基本的には、形態・行動・分布・生殖の有無などで区別され、同じ種同士では繁殖して子孫を残すことができる、とされています。

国際的に統一された種段階の分類群「種名 species name」を学名と言い、「属名+種小名」と、2つの部分から成り立ちます。例えばウソ *Pyrrhula pyrrhula* では、前の *Pyrrhula* が属名、後ろの *pyrrhula* が種小名です。この場合はたまたま両方同じで分かりにくいのですが、カワラヒワ *Carduelis sinica* では、「*Carduelis*」が属名、「*sinica*」

が種小名です。

これは国際動物命名規約による「二名法」という命名法です。ラテン語またはラテン語化された言語が使われ、通常斜体文字で表記されます。

種名の後に命名者名と公表年が付け加えられていることがありますが、これらは任意のもので、学名としてなくてはならないものではありません。

●次は「亜種」と「亜種名」

分類体系で「種」の次の下位に位置する階級が「亜種 subspecies」です。地理的に異なる場所で成立した形態の、遺伝的特徴をもつグループを意味します。「亜種名」は、やはり国際動物命名規約によって、

「属名+種小名+亜種小名」と、三名法による三名名で表示されます。

ウソは、国内では次の3亜種が記録されています。

亜種 ベニバラウソ

Pyrrhula pyrrhula cassinii

亜種 アカウソ

Pyrrhula pyrrhula rosacea

亜種 ウソ

Pyrrhula pyrrhula griseiventris

これらはしばしば *P. p. cassinii* のように省略して表記されます。

同様に、カワラヒワでは、
亜種 オオカワラヒワ

C. s. kawarahiba

亜種 カワラヒワ *C. s. minor*

亜種 オガサワラカワラヒワ

C. s. kittlitzii

の3亜種が記録されています。

お分かりいただけましたか? 「亜種」というのは、「種と同列で少し違うもの」という意味ではなく、「種の下分類段階」ですから、「ウソという亜種」

という段階も、あるわけです。

●「亜種」の下の分類群は？

変種(variety)、品種(race)、型(form)、多型(polymorph)、突然変異型(mutant)、季節型(seasonal form)などがありますが、国際動物命名規約の対象ではなく、通俗名となります。

●学名についてのおまけ

亜種オオカワラヒワの亜種小名が「kawarahiba」というのがおもしろいですね。「kawarahiwa」の誤植ではありません。

コマドリの学名が

Erithacus akahige

アカヒゲの学名が、

Erithacus komadori

と入れ違っているのは、有名な話です。

●和名と英名

日本各地で呼ばれている「地方名」に対し、日本国内で統一された名前を「標準和名」と言います。現在は、日本鳥学会が2000年に発行した『日本鳥類目録改訂第6版』が基準になっています。

英名はひとつに統一されていません。例えばウソについて前記第6版には、「Bullfinch(or Eurasian Bullfinch)」と記載されています。アメリカとヨーロッパでは違うことがしばしばで、海外の図鑑を見ていて迷う場合があります。そういう時は、国際的に統一された生物名「学名」が頼りです。

●「初認」と「初見」の話

本誌野鳥情報欄などでしばしば混同されているようです。「初認日」とは、ある地域にある一定期間滞在した鳥が最初に観察された日、「終認日」とは、その鳥がいなくなる前に観察された最後の日のことです。

ですから、自分が初めて出会った鳥

のことを、「私はこの場所では初認」などと表記するのは正しくないことになります。その場合は、「初見」というのが良いのではないのでしょうか。

なお、広辞苑には「初見」という言葉はありますが、「初認」という言葉はありません。

●「雛」から「成鳥」まで

「雛」＝孵化してから体羽が生えそろうまで。

「幼鳥」＝ひと通り体羽が生えそろうってから、最初の換羽を終えるまで。

「若鳥」＝第1回目の換羽を終えてから、成鳥の羽になるまで。

「亜成鳥」＝「若鳥」と同じ。

「成鳥」＝羽毛の色がそれ以上生長による変化をせず、生殖可能な状態まで成長した鳥。

『野鳥用語小辞典』ではこのように定義されていますが、ひと通り体羽が生えそろうた個体が巣立った時に「巣立ち雛」と呼ぶこともありますし、「若鳥」のうち、成鳥とほぼ同じ羽衣を体の一部に持っている個体を「亜成鳥」と呼ぶこともあります。学問的な言葉と慣用的あるいは感覚的な言葉が入り混じっている部分がありますが、できるだけ区別して使いたいものです。

●第〇回冬羽、夏羽

春と秋の2回換羽する鳥では、春の換羽で夏羽に、秋の換羽で冬羽に換わります。生まれて最初の秋に換羽して冬羽になったものを、第1回冬羽といいます。第2回冬羽というのは、翌年の秋に換羽した結果の冬羽のことです。

第〇回夏羽という言葉も同じです。

ひと冬の間は何回も換羽することが第〇回冬羽だと思った、と言う人がいましたが、こうなると本気か冗談か分かりません。もしもひと冬の間は何回も換羽していたら、大変でしょうね。風邪ひいちゃうかも。

2006 年秋 埼玉県タカの渡り調査

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査は(表1)の通り実施され、(表2)の結果を得ました。多くの方々のご協力をいただき、誠にありがとうございました。(小荷田行男)

表1 調査状況

調査地	標高	調査者	調査時間	天候
金勝山元気プラザ (小川町)	264m	後藤康夫ほか15名	9/23 9:00~12:15	晴れ
			9/24 8:30~12:00	晴れ
			9/30 8:30~12:05	晴れ
天覧山(飯能市)	190m	佐久間博文ほか8名	10/1 8:30~12:00	曇りのち小雨

表2 タカの渡り 種別観察数

調査地	調査日	ミサゴ	ハチクマ	トビ	オオタカ	ツミ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	ハヤブサ	チゴハヤブサ	チヨウゲンボウ	合計
金勝山元気プラザ	9月23日	1	3	13	1	0	0	0	29	0	0	1	48
	9月24日	0	0	9	3	0	0	2	7	0	0	1	22
	9月30日	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
天覧山	10月1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	3	24	5	0	0	2	36	0	0	2	73

2006 年秋 寄居町中間平緑地公園

タカの渡り観察 千島康幸(小川町)

寄居町中間平緑地公園にて、9月と10月に計8日間、タカの渡りの観察を行ったので報告する(表 中間平緑地公園タカの渡り)。

表 2006 年秋 中間平緑地公園タカの渡り

月/日	天候	観察時間	ハチクマ	オオタカ	ツミ	ノスリ	サシバ	タカsp	合計
9/16	曇	8:30~12:30	0	0	0	2	34	5	41
9/17	曇	8:20~10:15	0	0	0	0	0	0	0
9/20	晴	8:00~15:00	1	3	1	13	55	5	78
9/24	晴	13:40~15:00	0	0	0	0	0	0	0
10/4	曇	9:15~10:45	0	0	0	0	0	0	0
10/7	晴	8:30~11:15	1	1	0	6	1	0	9
10/9	晴	8:20~11:30	0	0	1	8	3	0	12
10/15	晴	8:30~10:30	0	0	0	11	0	0	11
		合計	2	4	2	40	93	10	151

2006 年秋 東松山市物見山

タカの渡り観察 澤井 清(鳩山町)

9月1日から10月1日まで1ヵ月間、東松山市物見山駐車場でタカの渡りを観察したので報告(表 物見山タカの渡り)する。本年は23日がピークだが、ピークと呼べる状況ではない。昨年に比べサシバ、ハチクマの渡りは減少している。

表 2006 年秋 物見山タカの渡り

月/日	天候	風	観察時間	ハチクマ	オオタカ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	ハヤブサ	チゴハヤブサ	チヨウゲンボウ	タカsp	合計	
9/1	雨		-											
9/2	快晴	北東	9:00~12:00											
9/3	晴		9:00~12:00	1	1								2	
9/4	晴		-											
9/5	晴		9:00~12:00	2									2	
9/6	雨		-											
9/7	雨		-											
9/8	曇		9:00~12:00											
9/9	曇		-											
9/10	曇		9:00~12:00						2				2	
9/11	雨		-											
9/12	雨		-											
9/13	雨		-											
9/14	雨		-											
9/15	曇のち晴		9:00~12:00						4				4	
9/16	晴		9:00~12:00					3	5		1	1	10	
9/17	晴		9:00~12:00											
9/18	雨のち晴		9:00~14:30	2									2	
9/19	晴		9:00~12:00	1	1				3				5	
9/20	快晴	北東	9:00~13:00	1					3				2	
9/21	晴		9:00~12:00	1	1	1	1	2	2				6	
9/22	曇	北東	9:00~12:00											
9/23	晴	北東	9:00~12:00	2	3			9	12				26	
9/24	晴		8:30~12:00	1	3			4	8				3	
9/25	晴		8:00~12:00	2									2	
9/26	曇		9:00~12:00	2	1				5				8	
9/27	雨のち晴		-											
9/28	晴		9:00~13:00		1			3	5	1	1		11	
9/29	曇		9:00~12:00											
9/30	曇	無	9:00~12:00		1			3					4	
10/1	曇のち小雨		9:00~12:00					1	5	1	1		8	
			合計	12	6	9	1	1	25	54	1	1	3	8



野鳥情報

蓮田市黒浜 ◇12月1日、上沼でコガモ、カルガモに混じってオナガガモ♀1羽、マガモ♀1羽。東埼玉病院西縁でアカゲラ♂1羽、カシラダカ約30羽など。12月5日、同所内で「ジュルル」の声の主、エナガ発見。12月6日、ゴルフ場の森でヒガラ2羽、ミソサザイ1羽。12月14日、東埼玉病院西縁でアカゲラ、クロジ♂、ルリビタキ(声2+)、シロハラ、カシラダカなど。ハイタカが飛び出して、数百m離れた森の中へ。12月15日、同所東縁でウソ♂1羽♀1羽、アカウソ♂1羽、ヒガラ、ルリビタキ♀1羽など。上沼でアシ原内の灌木から飛び去るアカゲラ。「クリッキッキ」と鋭い声、よく探すと、飛んでは灌木に止まる小鳥。ようやくアリスイと確認。12月21日、上沼北側でアカゲラ♀1羽。ヤマシギがブッシュから飛び出す。クイナが2ヶ所で鳴き、アリスイの声も。ウソ約10羽(アカウソ含む)が草地で採餌。イタチが何かをくわえて走り去った(鈴木紀雄)。◇12月9日、東埼玉病院でカケス、ヒヨドリ、ツグミ、キジバト、シジュウカラ及びアオジ多し、メジロ数群、コジュケイ10羽、ムクドリ1群、カシラダカ6羽+、シメ6羽+、カワラヒワ1群、ウグイス、ホオジロ、アオゲラ1羽+、アカゲラ1羽+、スズメ1群、コゲラ1羽、シロハラ1羽+。ヤマガラ1羽が松の実を食べていた。イカル1羽、ハクセキレイ1羽など。12月16日、同所でアオ



カヤクグリ(立岩恒久)

ジ及びカケス多し、シロハラ5羽、コゲラ2羽、アカゲラ1羽、カシラダカの群れ、メジロの群れ、シジュウカラの群れ、ツグミ、ウグイスなど。12月20日、同所でキジ♀1羽、コジュケイ10羽の群れと6羽+の群れの2群。ツグミ、メジロ、ウグイス、カシラダカ、エナガ、オナガ、アオジ、シジュウカラ、シロハラ、ホオジロ、アカゲラ、シメ、ヤマガラ、カケス、コゲラ5羽+など。コジュケイを間近に見たが、美しかった(本多己秀)。

蓮田市蓮田 ◇12月12日、根ヶ谷戸公園で木をつつく音がするのでふと上を見ると、ヤマガラが枝をつついてた。メジロの群れ、シジュウカラの群れ、コゲラ、ツグミ、ホオジロ(本多己秀)。

蓮田市笹山 ◇12月16日、田んぼでカシラダカ、ツグミ、ハクセキレイ、ホオジロ6羽、タヒバリ2羽、オナガの群れ、カワラヒワの群れ、ムクドリの群れ(本多己秀)。

蓮田市川島周辺 ◇12月18日、元荒川でユリカモメ約20羽、セグロカモメ1羽。何故ここに集まるのか不思議(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇12月6日、アリスイ、キジ、クイナの声を確認するも姿見えず。クイナは2羽で鳴き交わす。水路のフェンスでルリビタキ♀とウソ♂のツーショット。12月13日、コサギ、セグロカモメ、マガモ♂1羽、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ、アカゲラ、コゲラ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、ホオジロ、ウソ、シメ、カケスなど計31種。12月14日、アカゲラ♀1羽、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、ジョウビタキ、シロハラ2羽、ヤマガラ、ヒガラ1羽、ウソ♀5羽、シメ、カケスなど計35種。12月15日、ウソ♂2羽♀1羽がアキニレの実を食べていた。アカゲラ♂1羽、元荒川でセグロカモメ成鳥1羽。上空をオオタカが飛んだ。12月17日、アカウソ含むウソ8羽、アカゲラ♂1羽♀1羽、カシラダカ久しぶりに確認。元荒川でミコアイサ♀1羽、ここでは大変珍しい。12



ヤマセミ(大澤 祐)

月18日、ウソ、アカゲラ、久しぶりのベニマシコの声。12月19日、アシ原のブッシュから「チリリ…」の聞きなれない声。以前にも2～3回聞いていて正体不明だったが、ようやく姿確認。カヤクグリだった。2羽いるようだった。その他にカワウ、アオサギ、コサギ、イカルチドリ、カイツブリ、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、ルリビタキ(声)、ジョウビタキ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ヤマガラ、アオジ、カシラダカ、シメ、ウソ♂2羽♀4羽、カケスなど計39種。12月20日、ウソ、カシラダカ、アカゲラなど。12月21日、カヤクグリ1羽など(鈴木紀雄)。

さいたま市大宮区大宮公園 ◇12月24日午後4時、ポート池北の食堂前の落葉高木。ミヤマガラスらしき個体3羽。細い嘴と切り立った額、凸凹頭。残念ながら暗くて嘴根元の灰色ははっきり見えず。灰色と思って見ると灰色かな～？ ほかにハシブトガラス、ハシボソガラスも同じ木にいる。同4時24分、辺りの木から一斉に飛び立ち、約40羽ハシボソガラスか？ 先ほどの木を見るとミヤマガラス7羽残。その後、何羽か入れ替わり。同4時40分、一斉に飛び立ち、約20羽、多分ミヤマガラスの群れ。木にはハシボソガラスが1羽だけ残っていた。来週末はスコープを持っていこう！(浅見徹)。

春日部市内牧 ◇12月5日、アトリ8羽、ウソ♂2羽、カシラダカなど。遠くの灌木でノスリ1羽、やがて飛び去る。もう1羽飛び去ったのはオオタカだった。12月20日、ルリビタキ♀1羽、ノスリがカラス5～6羽に追われる。ウソの声、アトリ10羽の群

れ、カワラヒワ約30羽の群れ中にアトリ3羽(鈴木紀雄)。

越谷市古谷上 ◇12月14日、チョウゲンボウ1羽、田の上をヒラヒラと飛んできて、電柱にとまった。近頃あまり身近に見られなくなった(本多己秀)。

越谷市七左町8丁目 ◇1月1日午後3時、電柱の上にとまって鳴いているシラコバト1羽、最近シラコバトが減少していて観察するのが難しくなってきた(小菅靖)。

羽生市羽生水郷公園 ◇12月23日午前10時から11時30分、ベニマシコ、ホオジロ、カシラダカ、カワラヒワ、ヤマガラ、メジロ、シジュウガラ、コゲラ、ツグミ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、マガモ、カルガモ、コガモ、オオバン、カイツブリ、カワウ、アオジ、カケス、チョウゲンボウ、カワセミ、バン、ヒヨドリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ダイサギ、アオサギ、キジバト、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計33種類観察できた。カラ類やベニマシコなど個体数が多く、好天に恵まれ充分楽しめた(宇田川武男・美智子)。

菖蒲町役場近郊 ◇1月6日、ミヤマガラス約150羽(榎本秀和)。

久喜市菖蒲公園昭和池 ◇1月6日、トモエガモ♂♀合わせて約10羽。アメリカヒドリ♂1羽。ヨシガモも多い。セグロカモメ1羽(榎本秀和)。

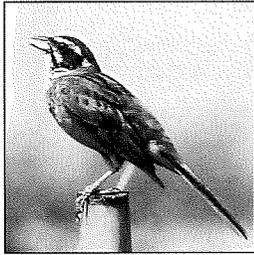
北本市石戸宿自然学習センター ◇1月21日、高尾の池でカイツブリ、アオサギ、コガモ、マガモ等。駐車場では、ウソ。あずまや付近のアシ原では、アリスイ、ウグイス、ルリビタキ、ジョウビタキ、カシラダカ、ベニマシコ等。センター付近では、ハイタカ(上空)、カヤクグリ、シロハラ等が見られた。カシラダカは1～2m程まで寄ってきて、驚いた(井内 寛裕)。

表紙の写真

スズメ目ヒバリ科ヒバリ属 国内では、オオヒバリ、カラフトチュウヒバリ、ヒバリの3亜種が記録されていますが、これは普通の亜種ヒバリです。 **寺添捨男(さいたま市)**



行事案内



ホオジロ(落合英二)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4 月 1 日(日)

集合：午前 9 時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：暖冬の今年は蒲桜も桜堤も満開かも。昨年はベニマシコ、ジョウビタキはまだ滞在中でしたが、今年はどうでしょうか。花と野鳥を求めて公園とその周辺を散策します。

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷 9:11 発、または寄居 8:49 発で「大麻生」下車。

担当：後藤、和田、島田、森本、中里、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、千島、大澤、飛田、新井(巖)、鶴飼

見どころ：花いっぱい季節を迎えました。荒川堤をゆっくと歩きましょう。冬鳥は北へ向い、夏鳥は南から渡来して、入れ替わりの季節です。ツバメやアマツバメを探してみましよう。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4 月 15 日(日)

集合：午前 9 時 30 分、西武狭山線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、小林(ま)

見どころ：季節の移ろいが異常に早い今年、冬の水鳥たちはどれだけ残っているでしょうか？ 代わりに気の早い夏鳥たちの出会いがどれだけ期待できるでしょうか？ 端境期の探鳥の“意外性”を楽しみましょう。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈ヘルシーロードコース〉

期日：4 月 1 日(日)

集合：午前 9 時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅西口バス 1 番乗り場から、浦和美園駅行き 8:31 発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、藤田(敏)、須崎

見どころ：今年は桜の開花がだいぶ早く、ほかの花々も数多く咲いて、まさにお花見探鳥会。鳥たちも賑わいを見せて待っています。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4 月 15 日(日)

集合：午前 8 時 15 分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前 9 時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4 月 8 日(日)

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、増田、青木、宇野澤、増田、須崎

見どころ：春の見沼田んぼは楽しい。菜の花が咲き、斜面林の緑がまあるく囲んでいる。芝川のカモたちも帰り支度。コアジサシやムナグロの到来も近い三室へどうぞ。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月21日(土)午後3時～4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

東松山市・物見山探鳥会

期日：4月22日(日)

集合：午前9時30分、物見山駐車場（峠を越えた右側）。

交通：東武東上線高坂駅西口から、川越観光バス鳩山ニュータウン行き 8:51、9:01 発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：藤掛、島田、岡安、後藤、増尾、高橋(優)、志村、山田(義)、林、中村(豊)

見どころ：エナガ、シジュウカラ、キツツキの仲間を探しながら、帰り始めるツグミを見送りましょう。チゴユリの群生地や、若葉の美しい里山を楽しみましょう。

東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：4月27日(金)夜行(船中泊)～29日(日)

集合：27日(金)午後8時30分、JR山手線浜松町駅(東京寄り改札口前)。

出港：27日午後10時30分、東京港竹芝棧橋。現地港到着は28日午前5時の予定。帰着：竹芝棧橋に29日午後8時30分の予定。費用：30,000円(1泊3食、2等往復船賃、懇親会費、保険料など)。万一過不足のときは当日精算。その他島内常時必携ガスマスク代2,520円、島内移動のバス代1,300円などは別途個人負担。

持参品：28日の朝食と昼食。

定員：20名(当支部会員限定。応募多数の場合は抽選)。

申込み：普通葉書に住所、氏名、生年月日、

年齢、性別、電話番号(携帯も可)、喫煙の有無を明記(乗船名簿記入、保険加入、部屋割りのため必要)して、藤掛保司(

月5日(木)締め切り。

担当：藤掛、海老原、榎本(秀)、石光、青木
見どころ：2000年の噴火後初めての探鳥会、バードアイランド三宅の鳥たち、アカコッコ、イイジマムシクイ、カラスバト、ウチヤマセンニュウなどの現状は？ 復路では海鳥も期待。

宿泊：28日宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

ご注意：① 火山性ガスの関係で、呼吸器官等健康に不安のある方はご遠慮ください。

② 天候などで帰りの船が欠航し、予定通り帰れない場合もあります。

シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日(日・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回独自にシギ・チドリ類の調査を続けています。下記調査地では、多くの会員のご参加ご協力をお願いしています。

◆ 大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角 近くの土手の上、グラウンド入口。

担当：石井 智

解散は昼頃。調査のため参加費は不要です。雨天でも行きます。シギ・チドリが大変少ないこともあります。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月29日(日・祝)

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス③ 番乗り場から、彩光苑・春日部エミーナ ス行き 8:41 発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩3分。

担当：石川、吉安、橋口、新井(良)、宮下、吉岡(明)、野村(弘)、野村(修)

見どころ：暖冬は野鳥の移り変わりにどう影響するのでしょうか。ツグミやシメなど

冬鳥に名残を惜しみ、キビタキ、センダイムシクイらの夏鳥との再会を期待しましょう。

さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月30日(月・振休)
 集合：午前9時10分、桜区役所バス停付近。
 交通：京浜東北線浦和駅西口バスロータリー5番乗り場から、荒川総合公園行き8:40発で「桜区役所」下車。
 担当：倉林、海老原、小林(み)、渡辺(嘉)、新部、赤堀、増田
 見どころ：新緑の輝きが美しい季節、渡りの季節です。素晴らしい鳥たちとの出会いを期待しましょう。今年もオオルリの美声を楽しめるかな。
 ご注意：集合場所が変わりました。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：5月26日(土)～5月27日(日)
 集合：27日午前9時、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。
 交通：長野新幹線「あさま503号」(東京6:52→大宮7:18→熊谷7:32→高崎7:50→長野8:43着)、または「あさま505号」(東京7:28→大宮7:52→長野8:53着)
 費用：10,500円の予定(1泊3食 現地バス代、保険料など)。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。
 定員：30名(先着順、県支部会員優先)
 申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記し、菱沼一充()まで。

担当：菱沼(一)、藤掛、中里、長嶋
 見どころ：記録的な暖冬で虫やカエルも早くから活動しているようです。久しぶりに赤い鳥に会えるような予感がします。それにキビタキ、サンショウクイ、クロツグミなど。
 ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

2006年埼玉県内鳥見ランキング結果発表普及部

1年間の鳥見活動を振り返る「埼玉県内鳥見ランキング・2006年」の結果は次表の通りとなりました。

今回は、観察鳥種数部門、探鳥会参加数部門ともに、鈴木敬さんがチャンピオンです。その内容を見ますと、観察鳥種は前年の154種を上回る158種。探鳥会参加は前年の53回を上回る63回、これは埼玉県支部探鳥会71開催日(延べ110回)の89%です。

2006年観察鳥種数ランキング

順位	鳥種数	観察最終日	氏名
1	158	12月13日	鈴木 敬
2	133	12月11日	青木正俊
3	126	12月2日	千島康幸
4	125	12月24日	千野安以
5	124	11月26日	新部泰治
6	122	12月13日	佐藤 宏
7	120	12月28日	玉井正晴
8	113	11月29日	久保田忠資
9	109	12月13日	大坂幸男
10	108	12月17日	植平 徹
11	102	12月10日	鬼塚勝靖
12	98	12月17日	榎本秀和
13	92	11月26日	浅見 徹
14	86	12月24日	四分一保雄
15	83	12月24日	猪飼幹太
16	76	12月24日	橋口長和

2006年探鳥会参加ランキング

順位	参加回数	探鳥地数	氏名
1	63	34	鈴木 敬
2	57	33	千野安以
3	55	28	藤掛保司
4	49	25	青木正俊
5	39	30	佐藤 宏
6	39	28	鬼塚勝靖
7	38	25	新部泰治
8	38	17	栗原省二
9	36	22	小林正義
10	33	17	大坂幸男
11	32	21	植平 徹
12	26	15	四分一保雄
13	25	14	玉井正晴
14	13	7	浅見 徹
15	12	7	榎本秀和
16	7	7	猪飼幹太
17	4	3	橋口長和



行事報告

9月23日～10月1日 タカの渡り調査

ボランティア：24名

青山紘一、新井巖、石光章、鶴飼喜雄、内田孝男、岡野強、金子美智子、金子義栄、賢持由希、久保田忠資、後藤康夫、佐久間博文、鈴木敬、須永祐成、高橋ゆき乃、高松ルミ子、千島康幸、千野光久、千野安以、中川敏子、星進、松井昭吾、水谷真人、山口芳邦

11月26日(日) 狭山市 入間川

参加：34名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ キジ イカルチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 毎年冬の探鳥会では、40種前後の鳥が観察できる。今回も39種とほぼ同年並み。ただ全体的に個体数が少ないように思う。またカモは、数、種ともに少なく寂しい。(長谷部謙二)

12月2日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加：70名 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ミコアイサ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ チョウゲンボウ オオバン ユリカモメ セグロカモメ シラコバト キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラ

ス(49種) 今年はずいぶん暖かい日が続く。カモ類の数が少ないうえ、どういふわけか南ブロック、谷中ブロックとも、谷中湖の中央を走る道からは離れていて見づらかった。マガモ、ヒドリガモが多い。中ノ島付近ではベニマシコ、オオジュリン、シジュウカラ、ホオジロと、小鳥たちが顔を出してくれた。東橋から浮島を見ると、チュウヒがゆつくりと、独特の形で飛んでいる。調査では魚も食べるとのこと。東谷中橋手前を左に折れ史跡ゾーンへ。雷電神社跡に登れば、ノスリやトビ。穏やかな探鳥会だった。(内田孝男)

12月3日(日) 北本市 石戸宿

参加：59名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ コガモ オオタカ ツミ ノスリ コジュケイ クイナバン キジバト コゲラ キセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 陽だまりはポカポカの絶好の探鳥日和となった。この冬あちこちに出現しているウソが当地にも来てくれた。コースの途中2箇所ウソの群れに出会い、全員が美しい姿と声を堪能できた。常連のツグミ、ジョウビタキ、カシラダカなども健在。青空に透ける黄色・橙色の葉の中にカラの混群を探すと時は、最高だった。順光に白く輝くノスリとオオタカも良かったな。(おまけ：枯れ草の中からタヌキの親子が、鳥見人たちを興味深げに観察していた。)(浅見 徹)

12月3日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：59名 天気：曇時々晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ ユリカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) たくさんの人に参加していただき、のんびり探鳥会を楽しむことができたと思う。冬鳥た

ちにもたくさん会うことができた。ツグミは今シーズン多いようだ。ときおり出たタカの仲間や、カワセミのつがい、4月に続き2度目のベニマシコなど、楽しんでもらえただろう。(伊藤芳晴)

12月3日(日) 所沢市 狭山湖
参加：19名 天気：曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ オナガガモ キンクロハジロ ホオジロガモ トビ オオタカ コジュケイ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシブトガラス (38種) コース前半の林地では、常連だったリビタキが見られなかった。狭山湖畔では、定番のカンムリカイツブリとハジロカイツブリが近距離で見られ、両種の違いが良く観察できた。鳥合わせの最中にオオタカとヨシガモが出現し、種数も38種に達して、まずは満足の探鳥会となった。

(石光 章)

12月10日(日) 熊谷市 大麻生
参加：31名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ホオジロガモ ミコアイサ トビ オオタカ チョウゲンボウ オオバン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) 早朝から立ち込めていた濃い霧が晴れて、絶好の鳥見日和となった。土手の上に出るとトビが悠然と旋回していた。大麻生の主が天空から我々を出迎えてくれているような気になった。途中、日が高くなると風が強くなってきた。土手を降りると民家の柿にメジロが群がっていた。間近でしっかり見ることができた。今季はその数が大変多いように感じる。最後にチョウゲンボウが姿を現し、皆を喜

ばせてくれた。

(中里裕一)

12月10日(日) さいたま市 岩槻文化公園
参加：63名 天気：晴れ

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ノスリ イソシギ キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 今回の狙いはウソ。まずは村国池で黄色の鮮やかなキセキレイを全員でジックリ観察。旧自動車ブレーキテストコース復路で、お待ちかねのウソが出現。近くの枯れ枝にアカウソを含む6羽が勢揃いし、全員がスコープで紅色の美しい姿を堪能できた。傍らにかわいらしいヤマガラも。見られなかった場合を考えて用意してきた下見の時撮ったウソの写真を持ち出さずに済んだことや、参加者が満足してくれたことで肩の荷を降ろした気がした。

(長野誠治)

12月13日(水) 北川辺町 渡良瀬遊水地
参加：51名 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ ハイイロチュウヒ チュウヒ チョウゲンボウ キジ セグロカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (49種) 出発直後に谷田川岸で、オオタカが水中に押さえつけていたコガモを引き上げて、カラス達が見守る中悠然と羽根をむしり、肉を引きちぎる様を間近で見ることが出来て、大いに盛り上がった。アメリカヒドリ、カワアイサ、ミコアイサ等のカモを見た後も、タカの飛翔の間に、小鳥たちが次々と切れ間なく現れてくれた。好天気も手伝って最高に楽しい一日だった。(玉井正晴)



●「農家と野鳥の会の交流イベントー米作り体験」参加募集のお知らせ

野鳥と農業は密接な関係があるのに、野鳥の会会員は、あまり農業のことを知らないのではないのでしょうか。農業のことを、少し知りたいと思いませんか。

主催：高野博明(昨年のシロハラクイナ保護協力農家) 協力：日本野鳥の会埼玉県支部(担当：海老原美夫) 場所：さいたま市桜区塚本の神子田、シロハラクイナが繁殖したアシ原の隣の田 期間：4月下旬(田植え)から9月上旬(稲刈り)まで 募集：約40家族 会費：1家族4,200円

- 特典 ① 田植え・除草・稲刈りの体験ができます。この内の参加できるものだけでOK。日常の管理はすべて高野氏が引き受けます。
- ② 稲刈り後、乾燥・精米した新米5kgが、後日ご自宅に送られてきます。農業(化学肥料)5割以下、環境にやさしい特別栽培米のコシヒカリ。1kg650円。梱包代(150円)送料(800円)も含めると、それだけで4,200円相当になります。稲刈り体験に参加できなくてもお送りします。万一自然災害で特別栽培認証田での収穫が出来なかった時は、別の神子田米(コシヒカリ)5kgをお送りします。その場合、差額分の返金をご容赦ください。
- ③ 田植え・除草・稲刈り体験の時、農家のおにぎり(2個450円、1個250円、会費とは別)を味わえます。
- ④ 米の成長具合などをお知らせする「まえしば通信」が何回かメール配信されます。「まえしば(前四房)」というのは、江戸時代から伝わる高野家の屋号です。

申し込み いて、住所・氏名・電話番号を明記してお申し込みください。連絡を簡便化するため、申し訳あり

ませんが、メールアドレスのある方に限らせていただきます。稲刈り前なら、途中からの参加も可能です。

その他 将来的には、この田を渡り鳥のための秋季湛水田として、稲刈り後も1ヵ月程度水をためることができないかどうか、検討が進められています。

●FMラジオで普及活動

2月10日(土)朝8時30分から約8分間、海老原美夫がNACK5(さいたま市)に電話で生出演、彩湖の鳥と探鳥会などについて話しました。2月12日(月・休)午後3時から、FMチャッピー(入間市)に石光章が録音出演、約20分間、狭山湖・入間川の探鳥会などについて話しました。

●事務局の予定

- 4月7日(土) 編集部・普及部・研究部会議
- 4月14日(土) 5月号校正(午後4時から)
- 4月15日(日) 役員会(午後4時から)
- 4月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)

●会員数は

3月1日現在 2,261人です。

活動報告

- 2月10日(土) 3月号校正(海老原美夫・大坂幸男・喜多峻次・藤掛保司・山田義郎)
- 2月17日(土) 本部理事懇談会・理事会・懇親会に出席(海老原美夫)
- 2月18日(日) 役員会(司会：長野誠治、行事予定・その他)
- 2月19日(月) 3月号を支部報だけ会員向け発送(倉林宗太郎)

編集後記

冬の実感がない内に2月22日ウグイスの初音を聞く。昨秋から身近にも珍しい鳥が見られ喜んでいて。ところが農家にとっては降雪不足で水不足、暖かくて病虫害に徒長、遅霜の被害も心配とのこと。やはり冬は冬らしくで、春が来ないといけませんね。(内藤)

しらこぼと 2007年4月号(第276号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社